

実践報告 言語活動を取り入れた授業づくり

# 歌論を的確に読み取り、本文の内容について 論理的に発表しよう (古典)

実践報告者 長崎県立長崎南高等学校 教諭 岡本裕加

## 1 単元名

- ・科目名 古典（3年生）
- ・単元名 歌論を的確に読み取り、本文の内容について論理的に発表しよう

## 2 単元の目標

- ・古文の評論を読んで、構成や展開に即して的確にとらえようとする。  
(関心・意欲・態度)
- ・文章に表れている筆者の考えを的確にとらえ、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。  
(読む能力) (「古典B」指導事項のウ)
- ・和歌の修辞法や語句の意味、用法を理解する。  
(知識・理解) (「古典B」指導事項のア)

## 3 取りあげる言語活動と教材

- ・言語活動 古典に表れた人間の生き方や考え方などについて、文章中の表現を根拠にして話し合うこと。(「古典B」言語活動のウ)
- ・教材 『俊頼髓脳』より「歌のよしあし」(高等学校古典 古文編 第一学習社)

## 4 単元について

これまでの取組としては、古文「大鏡」や漢文「雑説」「傷仲永」の口語訳、作者の主張の読み取りについて、班ごとに取り組みさせてきた。基本的には、班ごとの話し合いを中心に活動させること、自分たちの考えをまとめさせると同時に、その根拠を本文の表現や文法事項をもとに述べさせること、他者の意見に耳を傾けつつ自分の考えを明らかにし、まとめさせること等を行った。成果としては、班活動を継続的に取り入れたことにより、生徒同士の交流、意見交換が活発に見られるようになったこと、自主的に問題や課題に取り組もうとする姿勢が見られるようになったこと、論理的に説明しようと、根拠を明らかにする姿勢が身についてきたということ、口頭での発表や記述に対する抵抗感が薄らいできたこと、などが挙げられる。ただし、以上のことと、実際の記述力の向上とが結びついている、という実感は、授業者にはまだ感じられない。生徒の論理的思考力や表現力を高める一方で、どれだけ本文に即した読みを深めることができるか、が課題である。

今回は、このクラスの生徒に限らず、本校の生徒があまり得意ではない歌論書を取りあげることにした。古文の読解を苦手とする生徒は年々増えており、また、近年の様々な試験での出題傾向として、古文の評論や和歌の読解を絡めるものも多い。本教材は短い文章ではあるが、筆者の端的な主張とその根拠となる藤原公任の和歌についての評価というものが的確に読み取れるかどうか読解の鍵となる。また、その際、和歌の修辞についても理解をしておかなければならない。

本来であれば、もう少しまとまった長さの文章について読み深める必要もあるが、今回は敢えて短い評論で、生徒がどこまで読み取れるのかを確かめてみたい。

また、今回の授業では、実物投影機を用いて、授業での活動時間を短縮できるように試みた。授業展開の効率化を図る上で、今後も活用してみたい。

## 5 単元の具体的な評価規準

関心・意欲・態度	読む能力	知識・理解
文章に書かれている内容を構成や内容に即して、的確に読み取ろうとしている。	文章に書かれている内容を構成や内容に即して、的確に読み取っている。	和歌の修辞法や語句の意味、用法について理解している。

## 6 単元指導計画（全3時間）

第1時……『俊頼髓脳』についてジャンル等の確認と本文の音読。登場人物の確認。

第2時……本文の内容確認。班ごとに口語訳、読解。

和泉式部の和歌について修辞法の確認。

第3時……筆者の主張の読解。その根拠となる藤原公任の和歌の評価を読解し、班ごとに内容をまとめ、発表。（本時）

## 7 本時の目標（第3時）

- ①筆者の主張を本文に即して読み取る。
- ②筆者の主張について、班ごとに話し合った内容を根拠に基づいて発表し、また、他者の発表を聞いて理解を深める。
- ③和歌の修辞法について理解を深める。

## 8 本時の授業計画

過程	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	具体的な評価規準と 評価方法
導 入  5 分	1 前時の学習内容を想起し、本時の学習内容を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前回の範囲の内容を確認させる。</li> <li>・和泉式部の和歌について確認させる。</li> <li>・実物投影機を使用する。</li> </ul>	<p>【評価規準】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・和歌の修辞法や語句の意味、用法について理解している。 (知識・理解)</li> </ul> <p>【評価方法】</p> <p>「行動の観察」</p>
展          開   30 分	<p>2 本時の学習範囲を通読する。</p> <p>3 筆者の主張について、班ごとにまとめる。</p> <p>4 班ごとに発表する。 代表4班(1班:2分程度)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・代表による指名読み。</li> </ul> <p>(10分)</p> <p>その際、根拠として</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>*和泉式部の和歌の修辞</li> <li>*公任の和歌の評価基準に留意させる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実物投影機を使用する。</li> <li>・発表しない班に司会進行役をさせる。</li> </ul>	<p>【評価規準】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文章に書かれている内容を構成や内容に即して、的確に読み取っている。 (読む能力)</li> </ul> <p>【評価方法】</p> <p>「記述の確認」</p>
ま と め  15 分	5 本時のまとめを行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習した内容を、板書をもとに確認し、まとめさせる。</li> <li>・感想、気づきを記入させる。</li> </ul>	

## 9 本時の評価

- ① 筆者の主張を本文に即して読み取ることができたか。
- ② 筆者の主張について、班ごとに話し合った内容を根拠に基づいて発表し、また、他者の発表を聞いて理解を深めることができたか。
- ③ 和歌の修辞法について理解を深めることができたか。

## 10 評価と課題

〈授業研究会より〉

今回は授業を見学した先生方に付箋を配布し、項目ごとに意見を記入していただき、それをもとに授業研究を行った。以下に主な指摘を挙げる。

### ①生徒の活動について

- 司会進行役の生徒がうまく工夫して進行している。
- 司会が他班の生徒にコメント発表を求めた。→話し合い活動の趣旨をよく捉えている。
- 生徒はよく活動している。
- 発表者の解釈に対して他の班の生徒が的確な質問をすることができる。  
→生徒に「聞く」能力があつての質問。
- 班ごとの活動時間に、発表準備として、本歌取りの技法について、便覧を使って調べていた。→発表、説明するための材料を自分たちで探していた。
- 修辞法の違いに着目し、2首の違いを精査していた。→根拠をもって話し合っていた。
- 発表用ワークシートが見やすい構造になっている。→普段の取組の成果か。
- 発表用ワークシートの記入は、投影することを意識して記入させた方がよい。
- 黒板に投影した際に字が小さくて読み取りにくい班があった。
- 生徒がグループ活動する場合、対立軸が立てられる部分に取り組みさせた方がよいのではないか。

### ②指導案・授業内容について

- 発表の打ち合わせについての指示が、教材の内容読解だけでなく、発表の手順についても検討を行うよう指示していた。→どのように発表すれば効果的か、生徒が考える。
- 実物投影機は板書の時間が短縮されて良い。
- しかし、表示する文字の大きさや照度の調整が必要。
- 生徒の活動内容が示されていて活動しやすい。
- しかし、俊頼の主張でないものを本文から抜き出しているグループも多かった。
- 全体の構造を最初に確認してから生徒に活動させても良かったのではないか。

### ③反省

教材研究と授業の組み立て方にまだ甘さが見られた。一部の生徒は、自分たちの読み取るべき内容を正確に把握できていなかったことが下記の生徒の感想からもわかった。生徒の視点に注意するように、今後も授業展開を改善していく必要がある。

また、初めて実物投影機を授業で使ってみたが、使い方は簡単で、生徒の書いた物をすぐに授業に反映、還元できるのは大いに魅力的だと感じた。しかし、指摘を受けたとおり、教室の明るさと機材の照度が合っておらず、文字の大きさも考慮しなければ見えにくいことが難点であった。新しい型の投影機を使えば、タブレットから直接スクリーンに映し出すことも可能とのことであるので、次年度以降に考えてみたい。

3年生2学期ということもあり、今回は少ない時間数での取組になってしまった。今回の教材については予習プリントを一切使わず、全て生徒たち自らの「読む」力に任せての授業であった。しかし、これまでに班ごとの話し合いと発表という活動を取り入れ、積み重ねてきた結果、授業者にとっても生徒にとっても、予想以上に成果が得られたと感じている。

〈今回の単元についての生徒の感想〉

- 私と同じ班の中に、「こういうのを調べるの楽しい」と、とてもうきうきしている人がいて、「輝いてるなあ」と思った。班ごとの発表でも、どの班も皆の前でわかりやすく発表していた。

- 班で話し合うことで、自分が気づけなかったことにも理解が深まった。発表の仕方を工夫・改善することも必要だと感じた。
- 和歌の修辞法を見つけるときに、メンバーそれぞれで目の付け所が違って、様々な意見が出たので、班で活動すると複数の視点で考えることができ面白いと思った。
- 自分たちの班とほぼ同じ意見の班が多かったが、中にはもっと深く読み取っているところもあって、クラス全体で話し合うと色々な考え方がわかって面白かった。
- 人の意見を聞くのはもちろん、自分の考えを口に出すだけで、また違った見方ができると思う。班の中で意見がぶつかると、弁証法的によりよい意見が生まれたりして、複数人で話し合うのはメリットが大きい。でもその前に、自分できちんと考えておくということが前提だとも思った。
- 俊頼の主張を読み取らないといけないのに、公任の主張と取り違いがあった。でも、他の班の発表を聞いて、こういう考え方もあるのか、と思った。（同様の意見複数）

〈授業についての生徒アンケート（34名実施）より〉

質問1：今年度に入って、古典の授業では班活動を行いながら授業をしました。  
そのことについて、どのような印象を持ちましたか？

- 班の皆と話し合いながら楽しく取り組めた。
- 高校の授業で、班ごとの発表という機会は少なかったので新鮮だった。
- 教え合いができて良かった。
- 班の他の人の様々な意見を聞くことができ、面白かった。視野が広がった。
- 皆で協力して意見をまとめることによって、友人との関係がより深まった。
- 班活動に慣れていくにつれて、意見が活発に出るようになり、今まで以上に自分の考えが深くなったし、他の意見を聞くことで、また色々考えることができた。
- 学習した内容が記憶に残りやすくなった。
- 他の班の意見を聞いて、自分たちの考えと比較しながら考えることができ、個人で考えるよりも印象に残った。
- 初めは少し戸惑ったが、わからない箇所を気軽に友人に聞くことができたし、順番で発表担当や司会担当をしたことで、普段避けがちだったことに取り組めて良かった。
- 人前で意見を述べるという場に慣れておらず時間がかかったので、もっと慣れることが必要だと思った。
- 班内で話し合っ、個人の意見を一つにまとめるという活動は普段あまりしていないことなのでよいと思った。
- 毎回班長が変わったので、班員全員がまとめることの難しさを知った。
- 予習をしていなくても発表するときは班で行うので、担当部分の予習が充分でない人がいて、困ることがあった。
- この活動の方法だと、人任せにする人や、少しうるさい人が出てくると思った。
- 話し合いに積極的な人と、最初から他人任せの人がはっきりと分かれてしまうのが気になった。

質問2：活動を通して、通常の授業形態（個人で読む活動）と比べて、理解は深まりましたか？それとも深まりませんでしたか？理由も合わせて書いてください。

深まった	94%
深まらなかった	6%

【深まった理由】

- 班の皆と意見を出し合って、わからなかったところがわかるようになった。
- 通常の授業では、たまに皆のスピードについていけない時があるが、班の話し合いでは、自分がどこを理解していないのかがわかり、理解を深めることができたから。
- 自分で予習してきたものを、再度班で話し合うことで、通常の授業よりも物語の内容やポイントが頭に残り、理解が深まったから。
- 通常の授業だと受身の姿勢になりがちだったのが、班と一緒に知恵を出し合い考えることで、理解が深まり、復習するときに頭に入りやすかったから。
- 後で本文を見直した時に、「この場面はこんな話をしたなあ。」とか「ここは自分の考えと違っていたなあ」などと、より鮮明に覚えていたから。
- 他の人と話をすることで、自分とは違う考えを知り、納得したり、それは違うと思ったりしたことで内容が印象づいたから。
- 自分の視点とは違う視点で文章を読んでいる人がいて、口語訳の仕方自分とは違い、勉強になったから。
- 班の話し合いの中で、自分の考えを話さないといけないので、結果的に通常の形態よりも考える時間をより長くとるようになったから。
- 班の中で様々な意見が出て、それを一つにまとめる時に、文法書や辞書をたくさん引き、皆が納得するまで議論したので、今までは板書を見て、単に「自分が間違っていたんだな」と思うだけで終わっていたが、今回の活動を通して、「間違い+その理由」を考えることができたから。

【深まらなかった理由】

- 内容は頭の中に入ってきて楽しかったが、細かい所の内容や文法事項が通常の授業よりもわかりにくかった。話し合っているけど本当にそれで良いのか自信が持てないから。
- 通常の授業形態の方が自分のわからなかったことや気づいたことを、その場ですぐにノートにまとめやすいので、復習することを後で考えると、常にノートをとる通常の形態の方がよいのかなと思ったから。

質問3：班活動の中で、班ごとの意見をシートにまとめたり、班ごとに意見発表したりすることで、文章を書くことや人前で意見を述べることに対する意識は変化しましたか？

変化した	97%
変化しなかった	3%

- なるべく他の人にわかりやすく話すために頭の中で文章構成を意識するようになった。
- 人前で発表することは以前ほど恥ずかしくなくなった。
- 班の中で自分の意見を述べる時に、どう言えば相手に伝わるのかだんだんわかるようになった。
- 文章を書くときにはわかりやすくまとめるための工夫ができた。
- 書記として班の意見をまとめるために、今まで以上に一人ひとりの意見をしっかり聞けるようになった。
- 自分の思っていることをそのまま相手に伝えるのは難しい。自分の中で整理されていないと相手に納得されないことがわかった。
- 代表として班の発表をする時に、皆に納得してもらうためには、どのタイミングで、どのような言葉を使って説明すればいいのかすごく悩んだ。

- 他の意見に対して違う意見を述べたり、矛盾点を指摘したりするということが今まであまりなかったので、実践するとなると自信が持てず、照れもあって難しかった。普段から積極的に意見を述べるのが少ないので、授業でも意見を述べるのができないのだと思った。自分の意見に自信が持てるよう、根拠もはっきりと示すようにしなければならない。
- 普段はあまり意見を述べる方ではなかったが、班の人がどんどん意見を出すので、自分も積極的に意見を述べようとする意識が高まった。
- 他の班からの意見、質問に対して答えることができ、アドリブの力もついたと思う。
- 発表するときの姿勢、声の出し方等、今まで気にしなかったことに対して意識を持って取り組めるようになった。
- わかりやすく発表するために、要点をまとめることが重要だと思った。
- 話す順序にも工夫が必要だと思った。聞く側は聞いたことを頭の中でイメージするしかないので、まずどの部分を話すのかははっきり示した上で、細かい部分の解説をする方法が伝わりやすいように感じた。
- これまでもあまり書くことや話すことに対して抵抗はなかったのも、特に変化はなかった。

#### 〈成果〉

生徒たちは、これまで、「どのように文章を読み取るか」ということについては、かなり集中して古典の学習に取り組んできた。古典の内容読解の為に文法や語彙力が必要であることについては認識しており、予習や小テスト等への取組も良好であった。ただ、これまでの授業形態では、どうしても「教師対生徒」という図式が成立してしまい、生徒一人一人が個別に自己の理解力や表現力を高めることにしか意識を向けられなかった。

しかし、今年度の言語活動を取り入れた授業を通して、生徒は「どのように表現すればよいか」ということに意識を持つことができるようになった。もちろん文章の書き方についてもであるが、「人前で説明する、意見を述べる」ということについても、これまで以上に他者の存在を意識し、表現活動に対して意欲的に取り組む姿が見られた。班活動で「協働」することにより、仲間と思考力・理解力を高め合うことができるようになった。更に、相手に伝えるための声の出し方や話す順序、要点のまとめ方などの具体的なテクニックだけでなく、相手を納得させるために自分の意見をしっかりと組み立てておくことの必要性にも気づき、以前よりも深い思考力を身につけ、結果として「読む」力も以前より身についた生徒が増えたことは、アンケートの結果からも明らかである。

#### 〈今後の課題〉

##### ① 授業者の教材・授業研究

読解のための班活動に向かわせる際、生徒が何に取り組めば良いのかわかるような的確な指示をするためにも、授業者の事前準備・教材研究をもっと確実にしておく必要がある。

##### ② 1・2年生を対象とする場合に同様の活動を行うための研究

今回は3年生対象で、これまでの古典の基礎的な下地があったからこそ可能であった部分が多い。1・2年次に班活動を取り入れながら古典を「読む」ためには、段階を経ながら効果的に言語活動を取り入れる必要がある。今年は、校内での国語科の研究授業が多く、1・2年生担当の先生の授業を見せていただく機会もあった。ぜひ、次年度以降につなげられるよう、他の先生とも意見を交換しながら取り組んでいきたい。

## 「言語活動」を取り入れた本実践の工夫とポイント

### 1 「言語活動」を積極的に取り入れた古典の授業づくり

新学習指導要領では、古典も現代文と同様に本文の内容の学習を充実させて古典に親しむ態度や古典を読む力を育成するように求めています。本実践は、歌論「俊頼髓脳」の「歌のよしあし」を教材とし、源俊頼の「歌のよしあし」に関する主張とその根拠となる和泉式部の二つの歌の優劣に関する藤原公任の判断について、班での話し合いを通して考察し発表するという言語活動を取り入れた取組です。俊頼の主張と公任の判断に関わる論理性を生徒が協働で考察しながら、「文章に表れている筆者の考えを的確にとらえ、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする」という単元目標の実現を目指しています。

### 2 ICTの活用 ～ 実物投影機

本実践では「実物投影機」を効果的に活用しています。一つは前時の振り返りとして和歌の修辞や掛詞を投影して短時間で復習し、板書する時間を省略することで授業の効率化を果たしています。また、班ごとに話し合った結果を発表する際、ワークシートに書き込んだ資料を投影して、意見や考えの共有化を図る手段の一つとして活用しています。「実物投影機」は扱いが比較的簡単で、ズーム機能を使えば内容の焦点化も可能です。本文のポイントの確認や生徒の成果物の共有を短時間で次々に行うこともできるので、積極的に活用してみてください。

### 3 「伝え合う場」をどう設定したか

実際の班の話し合いでは、進行、記録、計時、発表に役割が分担され、話し合いの進め方のプリントとワークシートに沿って取り組むように指示されていたため、生徒は設定された時間に何をすべきかを十分に理解し、高い集中力を保って話し合いに参加していました。また、クラスで班の発表を行う際は、発表しない班に進行を任せる、質疑応答を行うなど、クラス全体に当事者意識を持たせて主体的に取り組むことができるように工夫されていました。

### 4 本実践の意義と活用の留意点

本実践の成果は、岡本教諭のまとめにあるように、他者を意識した表現への意欲と協働による思考力や理解力の向上を通して、「結果的に『読む力』を高めることができた」という点にあります。授業アンケートでも、言語活動型の授業を通して理解力や表現への意識が高まったとほとんどの生徒が回答していました。本実践の意義は、生徒が主体的に学び合う授業は従来型の授業と比較して意欲や学力の向上が十分に期待できることを示している点にあります。

本実践を活用する際の留意点としては、

① ICTを活用する際、字の大きさや照度等の調整を適切に行うこと

② 生徒の言語活動の展開を踏まえた教材研究を十分に行うこと

が挙げられます。本実践のような言語活動型の授業は、従来型の授業よりも深い教材研究が求められることを踏まえておく必要があるでしょう。